

青森県埋蔵文化財調査報告書 第216集

近野遺跡 V

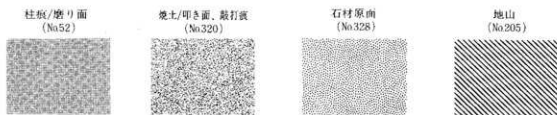
— 県総合運動公園拡張整備事業に伴う遺跡試掘調査報告 —

1997年3月

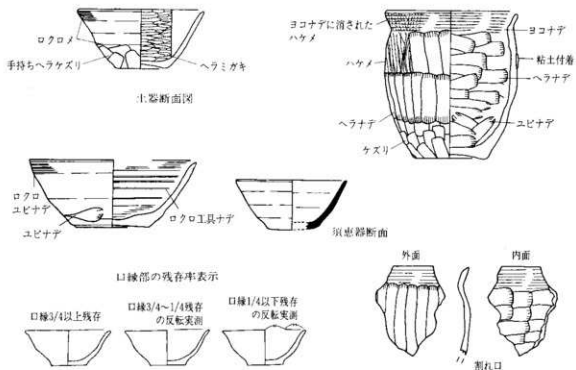
青森県教育委員会

細粒凝灰岩→「緑細」、ホルンフェルス→「ホル」、蛇紋岩→「蛇紋」

・ 図中に用例のない限り、次の意味でスクリーントーンを使用している。



・ 遺物実測図の書式は以下の通りである。



10 試掘調査での出土遺物・実測図・写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

11 本報告書の作成にあたり下記の方々には資料の観察等の助言をいただいた（敬称略・順不同）。

林兼作、遠藤正夫、小谷地肇、木本雅靖、田澤淳逸、長尾正義

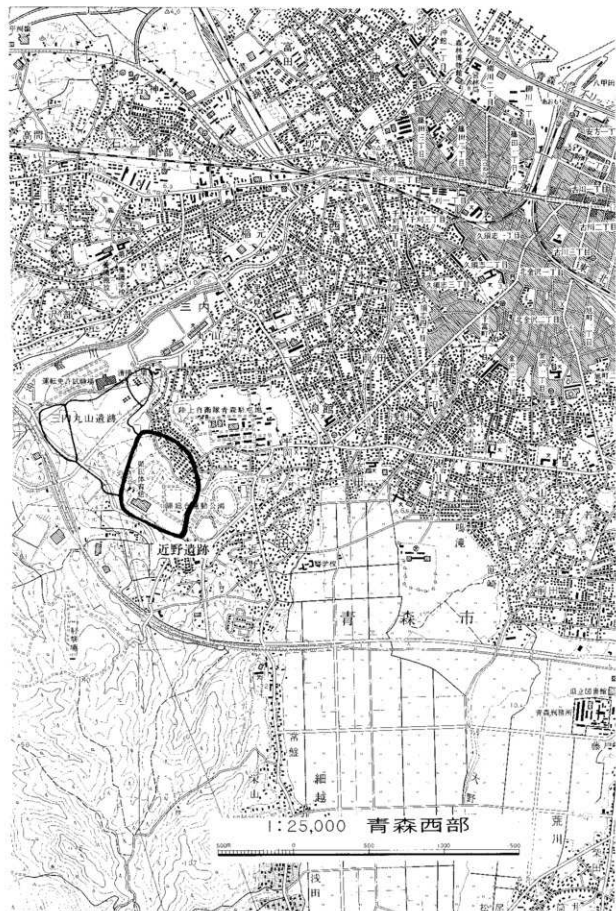


図1 遺跡の位置

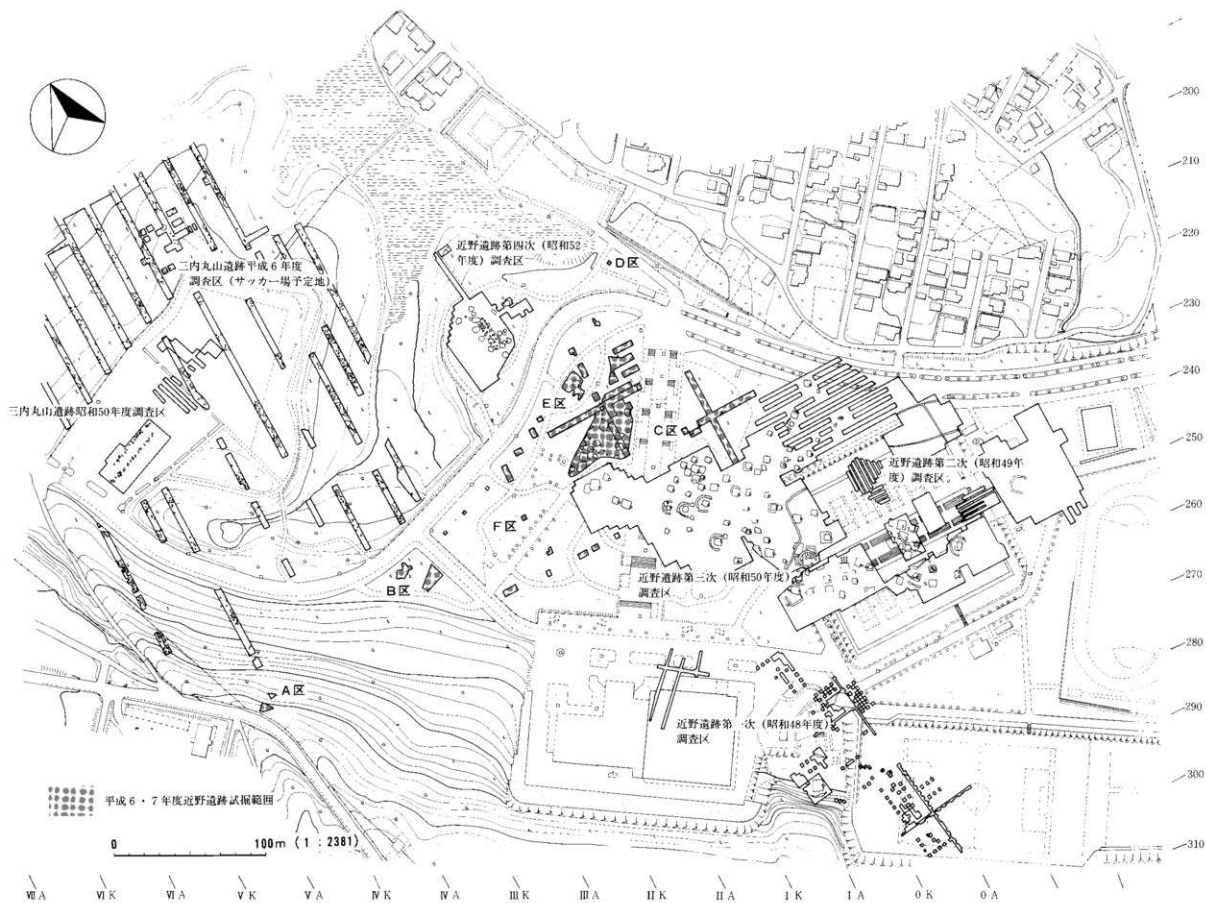


図2 近野・三内丸山遺跡調査状況

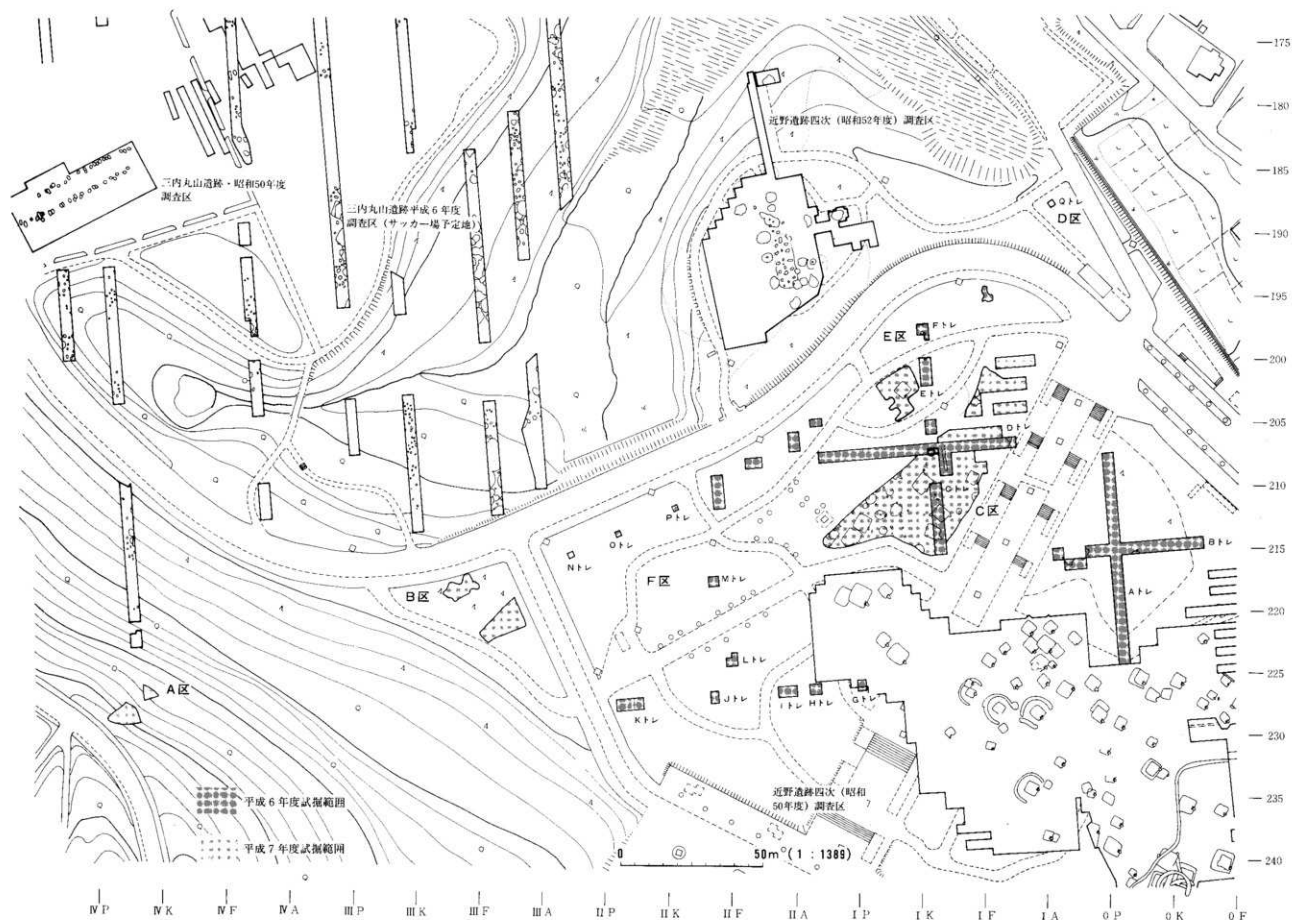


図3 平成6・7年度近野遺跡試掘範囲



図4 C・E区遺構配置図

第5節 調査区内の現状と土層

調査区は現在使用中の公園である。A区は中位段丘の斜面にあり、山林となっている。B区は、A区と低位段丘が接する部分であり、疎林及び芝生地となっている。C区は、体育館からの中央プロムナードによって東西に分断される杉の疎林である。唯一、公園造成以前の原状を保っていると考えられる。D・E・F区は車道に接する区域であり、遊歩道の巡らされる権木・芝生地である。

基本層序は第4章に、その各地区での残存状況を2章で後述するとして、ここではF区沢地内の土層について記述する。

- 1 黒色土 ヨシの根等の草本植物を多く含む。公園造成時まで地表であった部分と思われる。
- 2 暗灰色シルト層 相当均質なシルトである。貝殻状断口をもち、沼地の堆積と思われる。
- 3 粗砂層 純粋な砂層である。やや水の流が速い時期があったと推測できる。
- 4 暗褐色粘質土層 いわゆるサルケである。草本泥炭と呼ばれる泥炭化途中の土壌。大部分がヨシ由来であるが、ハンノキと思われる黄色い木皮状のビートを多量に混入する。下部は黒色化し、何らかの降下火山灰がとぎれとぎれに堆積する。
- 5 黒色粘質土 4層とは漸移し、層界は画然としない。希に縄文土器の小片が見られた。
- 6 灰色粘質土 地山との漸移層。ロームの水性二次堆積と思われる。

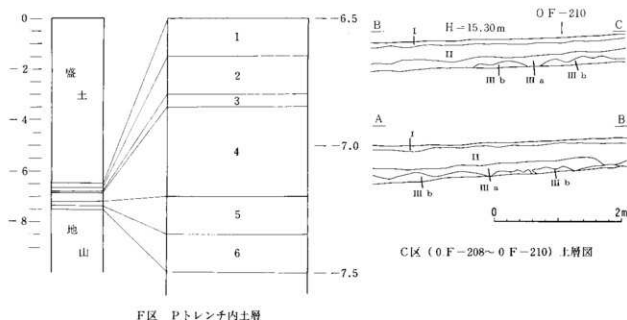
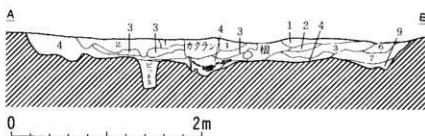
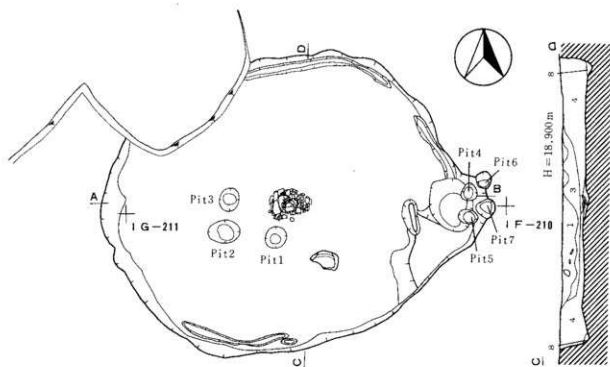
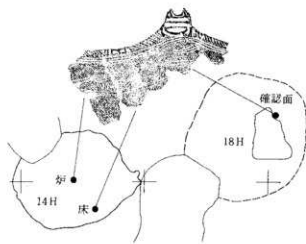


図5 調査区内の土層



第14号住居跡・炉

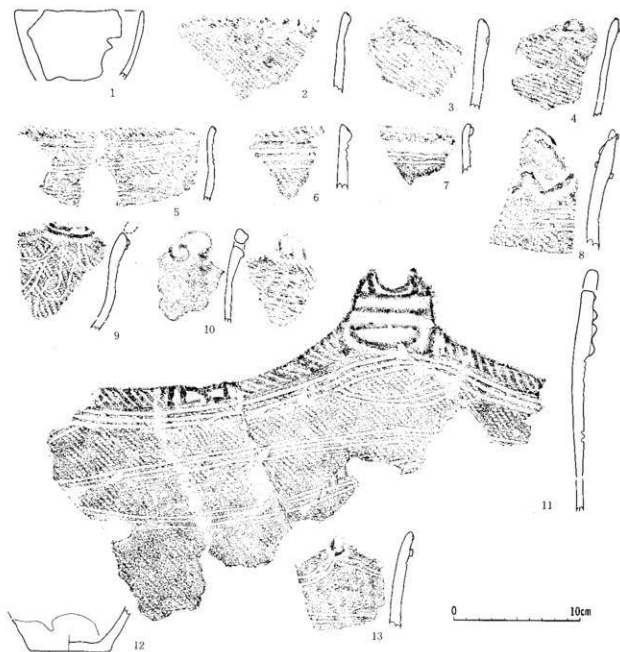


炉体土器接合関係

第14号住居跡・堆積土

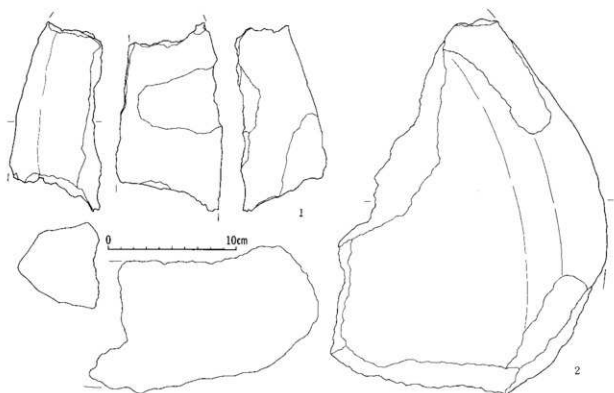
- | | | | | | | | |
|----|---------|-----------|------------------------------|-----|-------|-----------|-----------------|
| 1層 | にぶい黄褐色土 | 10Y R 4/3 | 珪s質土ブロック中量。 | 6層 | 暗褐色土 | 10Y R 3/3 | しまりなし。 |
| 2層 | 黒褐色土 | 10Y R 3/2 | 炭化粒塊多量。 | 7層 | 黒褐色土 | 10Y R 2/2 | 炭化粒少量。 |
| 3層 | 褐色土 | 10Y R 4/6 | マトリックス珪s質。珪b・N層ブロック中量。しまり強い。 | 8層 | 明黄褐色土 | 10Y R 6/6 | マトリックス珪s質。 |
| 4層 | にぶい黄褐色土 | 10Y R 4/3 | 珪s質土凝集ブロック多量。 | 9層 | 褐色土 | 10Y R 4/6 | 炭化粒少量。珪質ブロック中量。 |
| 5層 | 黒褐色土 | 10Y R 2/2 | 均質な粘質シルト。 | 10層 | 暗褐色土 | 10Y R 3/3 | N質浮石・炭化物少量。 |

図6 第14号住居跡



No	器種	部位	出土地点	出土位置	外面文様	分類	備考
1	鉢型	口縁	14H	1層	無文	II c	
2	深鉢	口縁	14H	確認面	RR押圧・横位回転、粘土紐貼付	II c	
3	深鉢	口縁	14H	確認面	RR押圧・横位回転	II c	
4	深鉢	口縁	14H	1層	RR横位回転、粘土紐貼付	II c	波状口縁
5	深鉢	口縁	14H	1層	RR横位・斜位回転、沈線、へう割み	II c	
6	深鉢	口縁	14H	床・面	LR縦位回転、沈線、華絡1押圧	II c	
7	深鉢	口縁	14H	3層	RR横位回転、粘土紐貼付、沈線	II c	
8	深鉢	口縁	14H	7層	RR横位回転、粘土紐貼付	II c	口縁に突起
9	深鉢	口縁	14H	確認面	RR横位回転、粘土紐貼付、沈線	II c	口縁に突起
10	深鉢	口縁	14H	1層	RR横位回転、粘土紐貼付、沈線	II c	口縁に突起
11	深鉢	口縁	14H	床・面	LR縦位回転、粘土紐貼付、沈線、華絡1押圧	II c	180・F-19と接合
12	深鉢	底部	14H	2層	無文	II c	
13	深鉢	口縁	14H	4層	LR横位回転、粘土紐貼付、沈線、華絡1押圧	II c	

図7 第14号住居跡・出土遺物(1)



No.	出土地点	出土位置	器種	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	備考
1	14H	床面	石皿	(128)	(60)	(59)	784	石英安	特殊施設内
2	14H	床面	石皿	(297.5)	(212.5)	(116)	7400	石英安	

図8 第14号住居跡・出土遺物(2)

〔時期〕 覆土・床面出土土器の型式及び炉体土器の接合関係より、円筒上層e式期の時期幅内で築造・居住・廃絶されたと思われる。特に築造時期は、第18号住居跡の廃絶後である可能性が高い。

1号竪穴遺構（図9～10）

〔位置・確認〕 C区、1A-205・206に位置する。Ⅲ層を粗掘り中に、暗褐色土の落ち込みを確認した。平成6年に第6号竪穴住居跡として確認し、平成7年に精査した。

〔重複〕 無し。

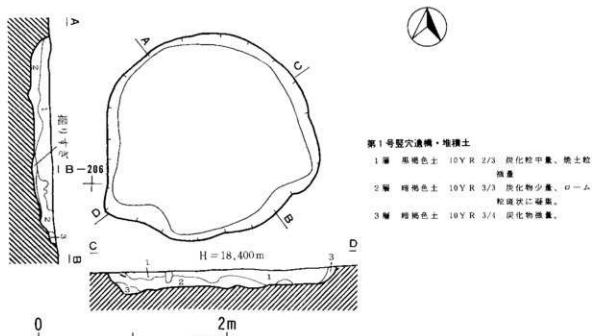
〔平面形・規模〕 不正円形を呈する。長軸210cm、短軸200cm、深さ28cmである。

〔壁・底面〕 壁は緩やかに立ち上がる。壁・底面ともに脆弱な作りで、残存状態も悪い。

〔堆積土〕 暗褐色土主体の土層で、1層は自然堆積かと思わせる感がある。後世の草木根によって、埋没時の堆積状態からも変化しているものと思われる。

〔出土遺物〕 縄文土器の破片が若干出土した。

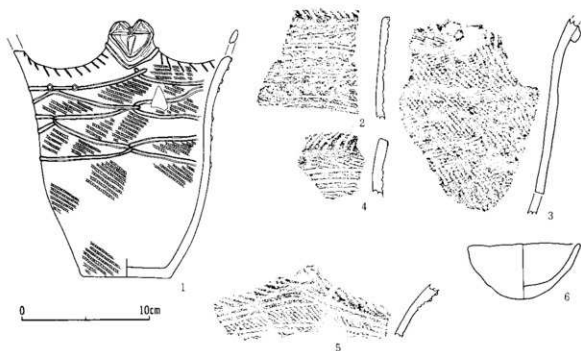
〔時期〕 覆土出土土器より、縄文時代中期・円筒上層e式期、又はそれ以降に廃絶された遺構と思われる。



第1号竖穴遺構・堆積土

- 1層 黒褐色土 10Y R 2/3 炭化物中量、焼土粒微量
- 2層 暗褐色土 10Y R 3/3 炭化物少量、ローム粒塊状に凝集。
- 3層 暗褐色土 10Y R 3/4 炭化物微量。

図9 第1号竖穴遺構



No.	器種	部位	出土地点	出土位置	外面文様	分類	備考
1	深鉢	碗光形	1層	確認面	紅褐色回転、粘土粒貼付、単結1押圧	II b	
2	深鉢	口縁	1層	確認面	紅褐色回転、沈線、単結1押圧	II c	
3	深鉢	口縁	1層	2層	紅褐色回転・押圧、粘土粒貼付	II c	
4	深鉢	口縁	1層	1層	紅褐色回転、沈線、単結1押圧	II c	
5	深鉢	口縁	1層	床	紅褐色回転、沈線、粘土粒貼付、単結1押圧	II c	
6	ミニチュア	碗光形	1層	確認面	無文	II b	

図10 第1号竖穴遺構・出土遺物

〔出土遺物〕 覆土より、縄文土器の小片が若干出土した。

〔時期〕 覆土出土土器より、円筒上層e式期、又はそれ以降に埋没した遺構と思われる。

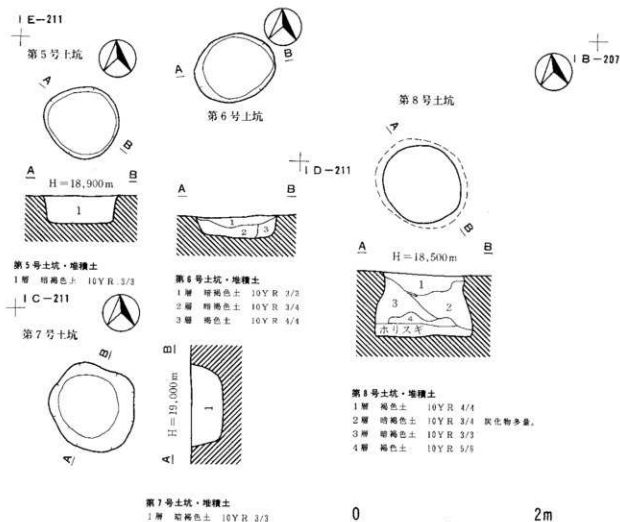
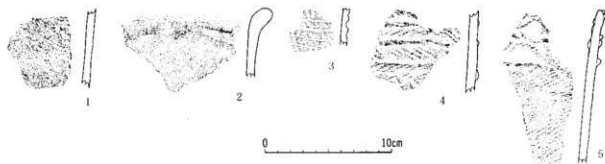
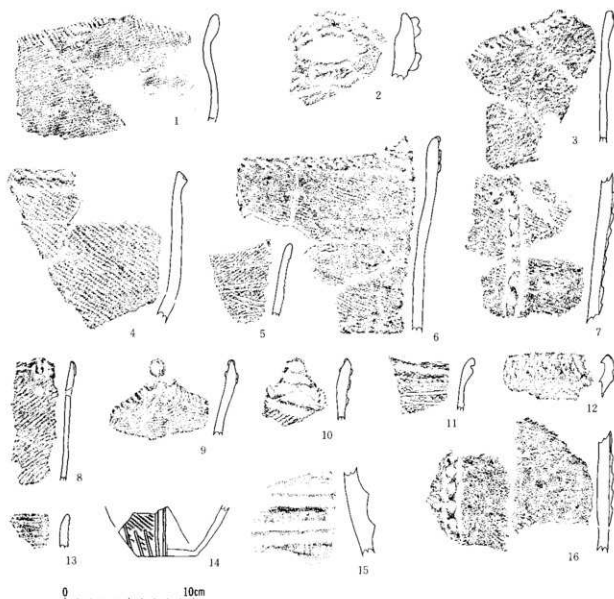


図11 第5・6・7・8号土坑



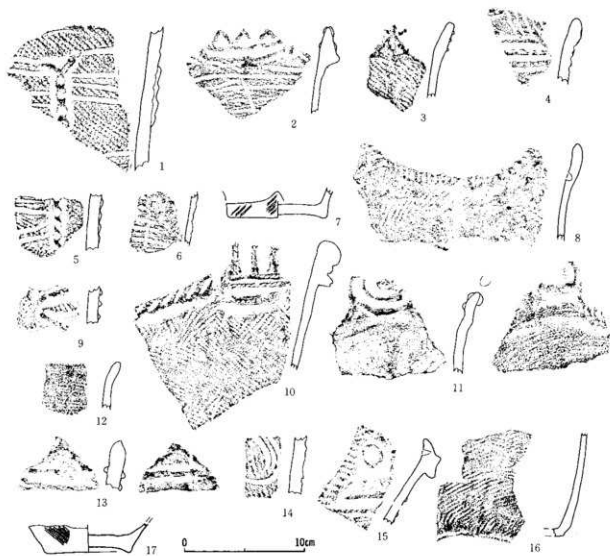
No	器種	部位	出土地点	出土位置	外面文様	分類	備考
1	深鉢	胴部	5土	覆土	LR回転・押圧	II c	
2	深鉢	口縁	6土	覆土	無文、五線状口縁	II b	
3	深鉢	胴部	6土	覆土	乱斜位回転、沈線	II c	
4	深鉢	胴部	7土	覆土	乱・康横位回転、粘土緑貼付	II b	
5	深鉢	口縁	8土	1層	0段多糸乱横位回転、粘土緑貼付	II c	

図12 第5・6・7・8号土坑・出土遺物



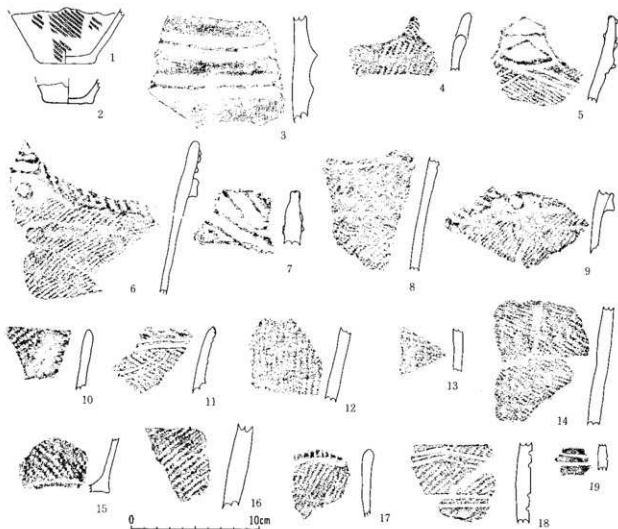
No.	器種	部位	出土地点	出土位置	外面	文様	分類	備考
1	深鉢	口縁	16H	確認面	LR横位・斜位回転、L単線1押圧		II c	
2	深鉢	口縁	16H	確認面	粘土紐貼付、沈線		II b	
3	深鉢	口縁	16H	確認面	不整然糸文横位回転・押圧		II c	
4	深鉢	口縁	16H	確認面	丸横位回転・押圧		II c	
5	深鉢	口縁	16H	確認面	L無筋横位回転、沈線、粘土紐貼付		II c	
6	深鉢	口縁	16H	確認面	丸横位回転・押圧、粘土紐貼付		II c	
7	深鉢	胴部	16H	確認面	丸横位回転、粘土紐貼付、垂頭圧痕		II c	
8	深鉢	口縁	16H	確認面	LR横位回転・押圧、粘土紐貼付		II c	補修孔有り
9	深鉢	口縁	16H	確認面	LR横位・斜位回転、粘土紐貼付、LR押圧		II c	
10	深鉢	口縁	16H	確認面	LR横位回転、粘土紐貼付、LR押圧		II c	
11	深鉢	口縁	16H	確認面	丸横位回転、粘土紐貼付、丸押圧、沈線		II c	
12	深鉢	口縁	16H	確認面	0段多条丸横位回転・押圧		II c	
13	深鉢	口縁	16H	確認面	LR押圧		I a	
14	深鉢	底部	16H	確認面	LR縦位回転、沈線		II	
15	深鉢	胴部	16H	確認面	貼付隆帯		II	
16	深鉢	胴部	16H	確認面	斜・終筋横位回転、粘土紐貼付、垂頭圧痕		II c	

図13 縄文時代の遺構・確認面出土遺物(1)



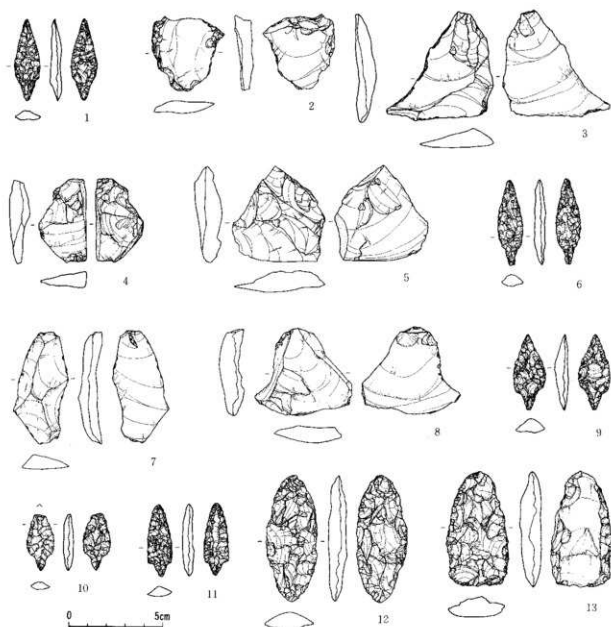
No	器種	部位	出土地点	出土位置	外 面 文 様	分類	備 考
1	深鉢	胴部	18H	確認面	RLR横位回転・粘土結貼付・指頭圧痕・沈線	II c	
2	深鉢	口縁	18H	確認面	RLR横位回転・粘土結貼付・沈線	II c	
3	深鉢	口縁	18H	確認面	RLR横位回転・粘土結貼付	II c	
4	深鉢	口縁	18H	確認面	LR横位回転・沈線・LR押圧	II c	
5	深鉢	胴部	18H	確認面	RL横位・縦位回転・粘土結貼付・指頭圧痕	II c	
6	深鉢	胴部	18H	確認面	縄文回転・沈線	II c	
7	深鉢	底部	20H	確認面	LR横位回転	II	
8	深鉢	口縁	21H	確認面	LR横位回転・押圧・粘土結貼付	II c	突起裏面に盲孔
9	深鉢	胴部	21H	確認面	LR横位・縦位回転・粘土結貼付	II b	
10	深鉢	口縁	22H	確認面	LR横位・縦位回転・粘土結貼付・LR押圧	II c	
11	深鉢	口縁	24H	確認面	RLR押圧・横位回転・粘土結貼付	II c	
12	深鉢	口縁	24H	確認面	RL斜位	II c	
13	深鉢	口縁	24H	確認面	粘土結貼付	II c	
14	深鉢	胴部	24H	確認面	R甲終1型縦位・沈線	II	
15	深鉢	口縁	24H	確認面	粘土粒・結貼付・LR押圧	II c	突起裏面に盲孔
16	深鉢	底部	24H	確認面	LR横位	II c	
17	深鉢	底部	24H	確認面	RL横位	II	

図14 縄文時代の遺構・確認面出土遺物(2)



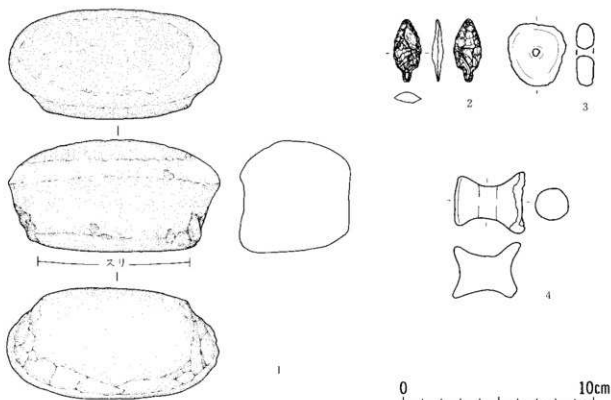
No	器種	部位	出土地点	出土位置	外面	文様	分類	備考
1	深鉢	底部	24H	確認面	RL横位・斜位回転		II	
2		底部	24H	確認面	無文		II	
3	壺	胴部	25H	確認面	つまみ出し状隆帯		II	
4	深鉢	口縁	25H	確認面	LR横位回転		II c	捺状口縁突起
5	深鉢	口縁	25H	確認面	RL横位回転・粘土粒貼付・沈線・乱押圧		II c	
6	深鉢	口縁	25H	確認面	LR横位回転・粘土粒・紐貼付・乱押圧		II c	
7	深鉢	口縁	25H	確認面	粘土粒貼付		II c	
8	深鉢	口縁	25H	確認面	LR(結2)横位回転・乱押圧		II c	
9	深鉢	口縁	25H	確認面	LR横位回転・押圧・粘土粒貼付		II c	
10	深鉢	口縁	27H	確認面	RL横位回転・LR押圧		II	
11	深鉢	口縁	27H	確認面	RL横位回転・沈線・ヘラ刺突		II c	
12	深鉢	胴部	27H	確認面	RLR横位回転		II	
13		胴部	27H	確認面	RL(結2)回転		II	
14	深鉢	胴部	27H	確認面	RL横位回転		II	
15	深鉢	底部	27H	確認面	RL横位回転		II	
16	深鉢	胴部	9土	確認面	LR横位回転		II	
17	深鉢	口縁	16土	確認面	LR横位回転・L押圧		II c	
18	深鉢	口縁	17土	確認面	LR横位回転・沈線		II c	
19	深鉢	口縁	18土	確認面	沈線		III a	

図15 縄文時代の遺構・確認面出土遺物(3)



No.	出土地点	出土位置	器種	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	備 考
1	16日	確認面	石鏃	43.5	14.0	6.5	2.7	珧頁	
2	16日	確認面	不定形	40.0	39.0	10.0	11.0	珧頁	
3	16日	確認面	不定形	57.5	57.0	11.0	16.8	珧頁	
4	16日	確認面	不定形	44.5	25.5	11.0	10.3	珧頁	
5	20日	確認面	不定形	51.0	49.5	15.0	24.7	珧頁	
6	25日	確認面	石鏃	45.5	13.5	6.0	3.1	珧頁	
7	22日	確認面	不定形	60.0	30.0	13.0	13.6	珧頁	
8	24日	確認面	不定形	46.5	52.0	13.0	18.7	珧頁	
9	24日	確認面	石鏃	40.2	17.5	8.0	3.6	正	
10	25日	確認面	石鏃	(30.3)	14.5	5.0	2.3	珧頁	
11	25日	確認面	石鏃	38.5	13.5	6.5	2.9	珧頁	
12	25日	確認面	石鏃	(67.0)	(27.5)	(10.0)	16.7	珧頁	
13	26日	確認面	石鏃	61.5	33.0	11.5	22.4	珧頁	

図16 縄文時代の遺構・確認面出土遺物(4)



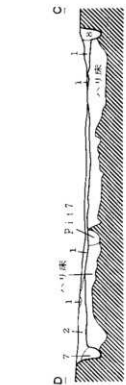
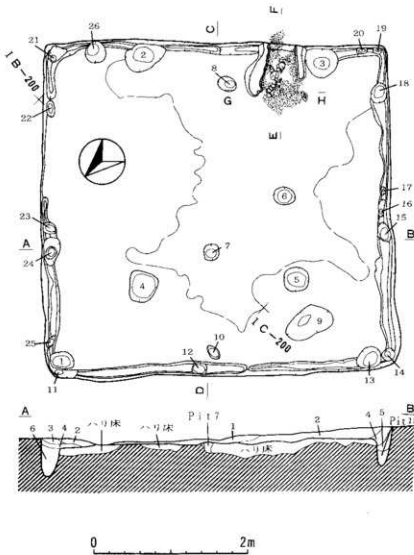
No.	出土地点	出土位置	器種	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	備考
1	25H	確認面	石笥	59.0	111.5	59.0	107.6	安	
2	16土	確認面	石鏡	33.5	15.0	60.0	2.1	柱頁	

No.	種類	出土位置	出土地点	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	備考
3	円盤状土製品	12H	確認面	33.5	28.0	9.0	7.0	土器片利用
4	土製耳飾	16H	確認面	36.0	33.0	16.0	21.0	装着部直径1.8cm

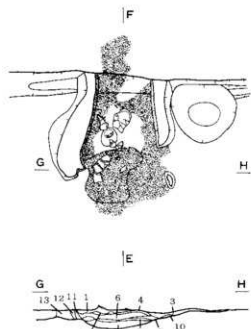
図17 縄文時代の遺構・確認面出土遺物5)

(縄文時代の遺構のまとめ)

住居跡13軒、土坑18基、堅穴遺構2基検出された。この時期内での遺構の重複は見られなかった。確認面での出土遺物中、最も多かったのは円筒上層e式の土器片である。未精査遺構の時期は、確認面遺物から推定した。これら確認面遺物の解釈上参考となるのが、第14号住居跡の炉体・床面出土遺物と、第18号住居跡確認面の土器片集合部との接合関係例である。近所の埋没途中住居を、不要物の廃棄場所としていたとも読みとれる例である。確認面出土遺物が、その住居の使用期間より確実に新しく、出所も全く別であるとすれば、時期決定上あくまで参考程度にしかなり得ないことになる。今回検出した「円筒上層e式期」とした遺構は、出土遺物の比率より円筒上層e、さかのぼっても上層d式の時期幅内に収まるものと思う。



- 19H
- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 炭化木片少量。
 - 2層 暗褐色土 10Y R3/3 炭化粒僅量。
 - 3層 灰褐色土 10Y R4/2 しまり強い。
 - 4層 黒色土 10Y R2/2
 - 5層 暗褐色土 10Y R3/4
 - 6層 暗褐色土 10Y R3/4 しまりなし。
 - 7層 暗褐色土 10Y R3/4
 - 8層 暗褐色土 10Y R3/4

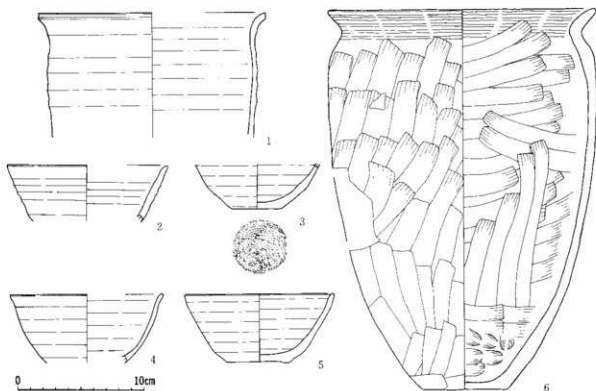


- 19Hかまど
- 1層 赤褐色土 Y R2/2
 - 2層 黒褐色土 10Y R3/2
 - 3層 褐色土 7.5Y R4/4
 - 4層 黒褐色土 10Y R2/3
 - 5層 褐色土 7.5Y R4/4
 - 6層 明赤褐色土 5Y R3/4
 - 7層 褐色土 7.5Y R4/6
 - 8層 暗褐色土 7.5Y R3/3
 - 9層 明赤褐色土 5Y R5/8
 - 10層 赤褐色土 10Y R4/8
 - 11層 暗褐色土 10Y R3/4
 - 12層 赤褐色土 5Y R4/8
 - 13層 にぶい褐色土 10Y R5/4

第19号住居跡・カマド

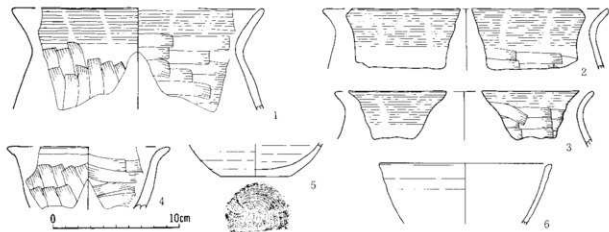


図18 第19号住居跡



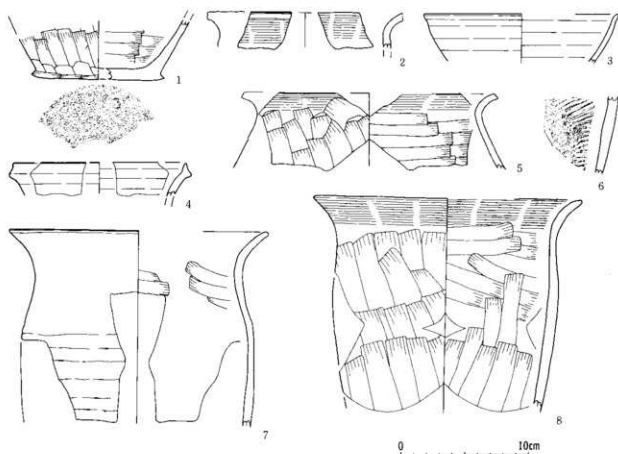
No.	種類	器種	部位	出土地点	層	口径	底径	器高	外面調整	内面調整	底面調整	備考
1	土師器	甕	口縁部	19日ホマド	1層	[17.9]	-	(9.7)	ロクロ	ロクロ		
2	土師器	钵	口縁部	19日	2層	[12.6]	-	(4.5)	ロクロ	ロクロ		
3	土師器	钵	胴下半	19日	2層	-	4.0	(3.4)	ロクロ	ロクロ	図未収	
4	土師器	钵	口縁部	19日	1層	[12.1]	-	(5.4)	ロクロ	ロクロ		
5	土師器	钵	略光形	19日ホマド		11.9	5.0	3.5	ロクロ	ロクロ	図未収	
6	土師器	甕	略光形	19日	2層	21.2	6.7	30.0	ケズリ、ヘラナデ、ヨコナデ	ヘラナデ、エビナデ	ケズリ	

図19 第19号住居跡・出土遺物



No.	種類	器種	部位	出土地点	層	口径	底径	器高	外面調整	内面調整	底面調整	備考
1	土師器	甕	口縁部	1日	確認面	[19.9]	-	(8.0)	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	-	
2	土師器	甕	口縁部	1日	確認面	[22.6]	-	(4.9)	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	-	
3	土師器	甕	口縁部	1日	確認面	[18.6]	-	(3.9)	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	-	
4	土師器	钵	口縁部	1日	確認面	[13.0]	-	(5.0)	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	-	
5	土師器	钵	胴下半	1日	確認面	-	5.5	(2.6)	ロクロ	ロクロ	図未収	
6	土師器	钵	口縁部	1日	確認面	[13.7]	-	(4.8)	ヨコナデ、イタナデ	ヨコナデ、イタナデ	-	

図20 平安時代の遺構・確認面出土遺物(1)



No.	種類	器種	部位	出土地点	層	口径	底径	器高	外面調整	内面調整	底面調整	備考
1	土師器	甕	肩部	2H	確認面	-	10.5	(4.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	
2	土師器	甕	口縁部	2H	確認面	[15.3]	-	(2.8)	ヨコナデ	ヘラナデ	-	
3	土師器	坏	口縁部	11H	確認面	[15.3]	-	3.9	ロクロ	ロクロ	-	
4	土師器	甕?	口縁部	13H	確認面	[13.5]	-	2.6	ヨコナデ	ヨコナデ	-	
5	土師器	甕	口縁部	13H	確認面	[20.0]	-	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	-	
6	須恵器	甕	胴部	13H	確認面	-	-	-	平行叩き	-	-	
7	土師器	甕	口縁部	17H	確認面	[20.1]	-	(15.4)	輪漉み肌、ナデ	ヘラナデ	-	
8	土師器	甕	口縁部	17H	確認面	[21.1]	-	(16.7)	ヘラナデ	ヘラナデ	-	

図21 平安時代の遺構・確認面出土遺物(2)

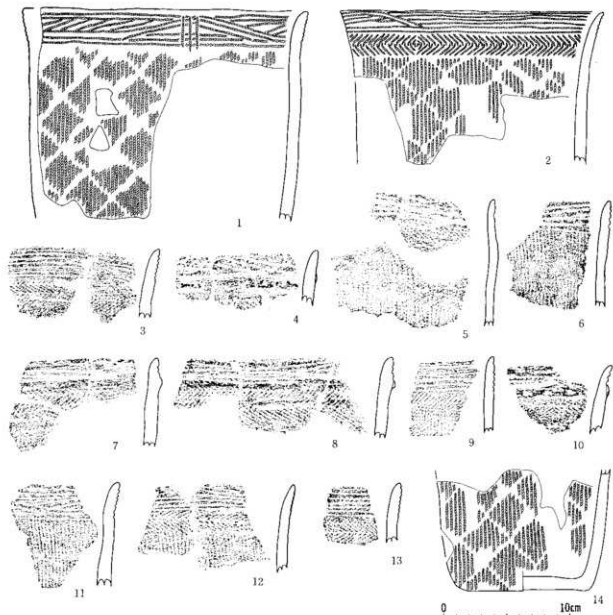
からは煙道部に煙出し甕が確認された。第2・5号住居跡からは覆土内に白頭山苦小牧火山灰と思われる降下火山灰が確認されている。

(各調査区のみまとめ)

全ての地区において削平が見られた。平場にⅡ・Ⅲ層が、比較的良く残存するのはB・C・E区である。C・E区以外では遺構は検出されず、遺物の検出も希である。A区はⅡ層が堆積せず、ロームの二次堆積によるⅢ相当層が堆積する。遺物は縄文土器の小片が数点検出されたのみである。B区はⅡ層が50センチ程残存するが、遺物は極少量である。D区は調査面積がわずかであるため判別しにくい。確認された盛土以外の堆積層が極薄いため、未破壊部分は少ないと思われる。F区は、B区に近い部分でⅡ層以下が残存するが、他は沢地を除いてV～VI層まで削平を受けている。

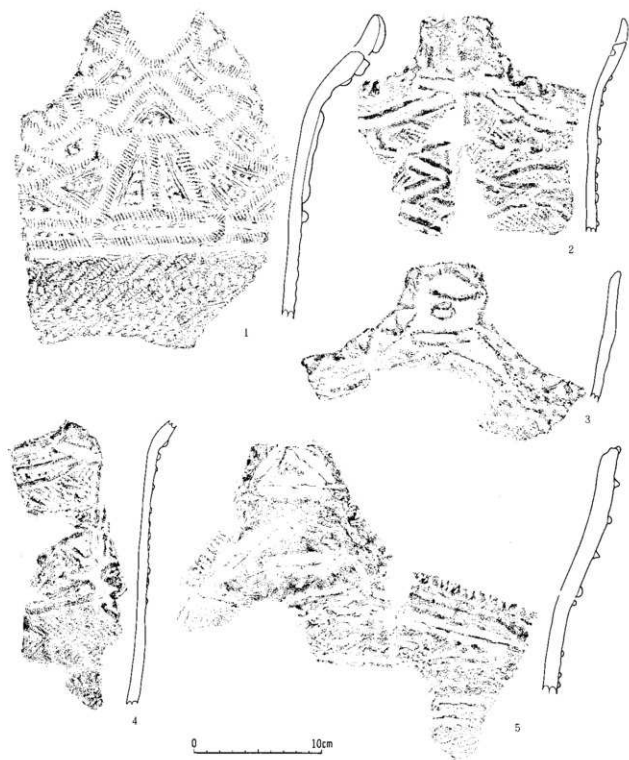
検出遺構一覧

遺構名	グリッド	確認期	年度	重 複	主軸方位	長(cm)	短(cm)	時期	精査	備 考
1 H	I B-212	Ⅲ	94		N-116° -E	572	420	平安	未	
2 H	I A-211	Ⅲ	94	>13土	N-132° -E	634	454	平安	未	B-Tn検出
3 H			94							欠番
4 H			94							欠番
5 H	I B-208	Ⅲ	94		N-136° -E	645	502	平安	未	礎板残存。B-Tn
6 H			94							2 壁に振り替え
7 H	O J-216	Ⅲ	94		N-137° -E	370		平安	未	
8 H	O H-215	Ⅲ	94		N-138° -E	390		平安	未	
9 H	O D-215	Ⅲ	94		N-139° -E	270		縄文	未	
1 0 H	O O-205	Ⅲ	94		N-140° -E	260		縄文?	未	
1 1 H	I H-211	Ⅲ	95		N-125° -E	549		平安	未	
1 2 H	I J-211	Ⅲ a	95		N-84° -E	286		平安	未	
1 3 H	I I-212	Ⅲ a	95		N-127° -E	638	510	平安	未	張り出し部有り
1 4 H	I F-210	Ⅳ	95		N-88° -E	420	316	円上 e	済	
1 5 H	I G-210	Ⅲ a	95	<16H		203	188	円上 e	未	
1 6 H	I B-209	Ⅳ	95	>15H		401	320	円上 e	未	
1 7 H	I D-207	Ⅲ a	95		N-132° -E	418		平安	未	
1 8 H	I E-210	Ⅲ b	95			415	382	円上 e	未	
1 9 H	I B-230	Ⅳ	95		N-137° -E	462	454	平安	済	
2 0 H	I K-211		95			314		円上 d ?	未	
2 1 H	O Q-212		95			452		円上 e	未	
2 2 H	I F-208	Ⅲ b	95			229		円上 e	未	
2 3 H	I E-209	Ⅲ b	95			388		縄文中期	未	
2 4 H	I F-212		95			314	302	円上 e	未	
2 5 H	I C-214		95			384		円上 e	未	
2 6 H	O R-208	Ⅲ b	95		N-122° -E	430		平安	未	
2 7 H	I B-209	Ⅲ a	95			300		円上 e	未	
1 土	I A-191		94			120	80	榎林?	未	
2 土	I A-195		94			156	150	縄文	未	
3 土	I A-195		94			138		縄文	未	
4 土			94							欠番
5 土	I D-211		95			80	76	円上 d・e	済	
6 土	I D-210		95			87	72	円上 d・e	済	チップ多量混入
7 土	I B-211		95			100	95	円上 d・e	済	
8 土	I B-207		95			104	90	円上 d・e	済	プラスチック型
9 土	I I-210		95			92	88	縄文	未	
1 0 土	I B-206		95			140	136	縄文	未	
1 1 土	I E-209		95			120		縄文	未	
1 2 土	I F-210		95			76		縄文	未	
1 3 土	I B-211		95	>2 H		144	124	縄文	未	
1 4 土	I F-208		95			34	30	縄文	未	
1 5 土	I E-212	Ⅲ a	95			90	86	平安	未	
1 6 土	I G-212		95			76	66	縄文	未	
1 7 土	I D-212		95			82	58	縄文	未	
1 8 土	I D-212		95			76	62	縄文	未	
1 9 土	O R-208		95			49	36	縄文	未	
1 壁	I A-205	Ⅲ a	95			240	210	円上 e	済	
2 壁	I S-211	Ⅲ a	95			210	200	縄文中期	未	



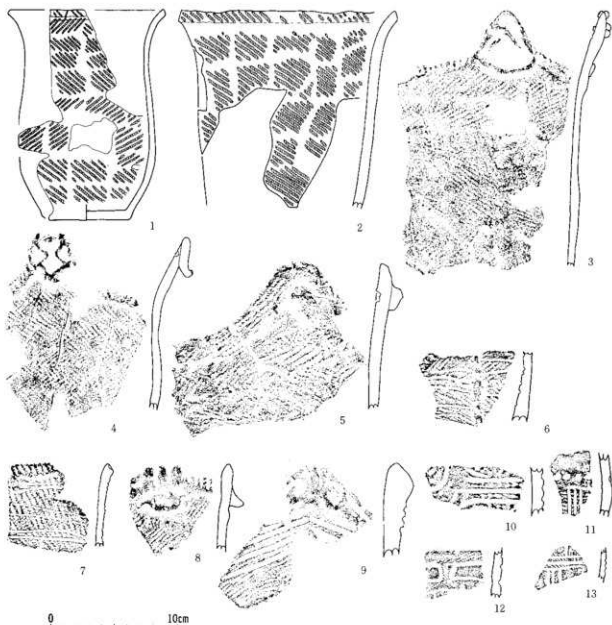
No	器種	部位	出土地点	出土位置	外 面 文 様	分類	備 考
1	深鉢	口縁	0 R-202	Ⅲ	斜位回転、R押圧	I a	
2	深鉢	口縁	0 Q-200	Ⅲ a	斜位、斜+斜(結1) 横位回転、R押圧	I a	
3	深鉢	口縁	0 Q-202	Ⅲ a	斜・斜(結1) 横位回転、R押圧	I a	
4	深鉢	口縁	0 R-202	Ⅲ a	斜横位回転、R(単路1) 押圧、貼付隆帯	I a	
5	深鉢	口縁	0 Q-202	Ⅲ a	斜R斜位・斜+斜(結1) 横位回転、単路1押圧	I a	
6	深鉢	口縁	0 Q-202	Ⅲ a	斜位回転、L押圧	I a	
7	深鉢	口縁	1 A-205	Ⅲ a	貼付隆帯、斜横位回転、R押圧	I a	
8	深鉢	口縁	0 P-200	表採	貼付隆帯、斜+斜(結1) 横位回転、R押圧	I a	
9	深鉢	口縁	1 G-212	Ⅲ a	L単路1 縦位・斜横位回転、L押圧	I a	
10	深鉢	口縁	0 R-202	Ⅲ a	貼付隆帯、刺突、斜横位回転、単路1押圧	I a	
11	深鉢	口縁	0 R-202	Ⅲ a	斜位回転、R押圧	I a	
12	深鉢	口縁	0 Q-200	Ⅲ a	斜位、斜+斜(結1) 横位回転、L押圧	I a	
13	深鉢	口縁	0 Q-202	Ⅲ a	斜+斜(結2) 横位回転、R押圧	I a	
14	深鉢	底部	0 Q-202	I	斜R斜位回転	I a	

図22 縄文時代の遺構外出土遺物(1)



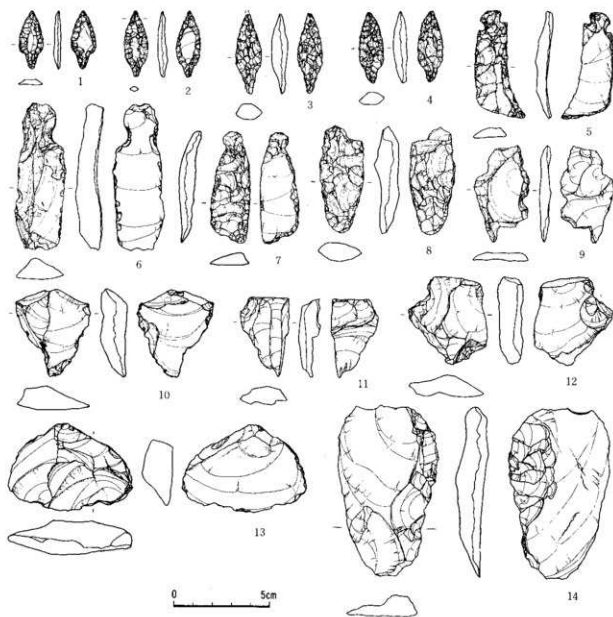
No.	器種	部位	出土地点	出土位置	外面文様	分期	備考
1	深鉢	口縁	Bトレンチ	I b	粘土縫貼付, R・L・LR押圧, LR(結1)横位回転	II a	
2	深鉢	口縁	風倒木	III a	乱横位・縦位回転, 粘土縫貼付	II b	
3	深鉢	口縁	0Q-202	III a	乱横位回転, 粘土縫貼付	II b	突起裏面に短沈線
4	深鉢	口縁	風倒木	III a	LR横位回転, 粘土縫貼付	II b	
5	深鉢	口縁	0N-202	III a	LR横位回転, 粘土縫貼付, R押圧	II b	

図23 縄文時代の遺構外出土遺物(2)



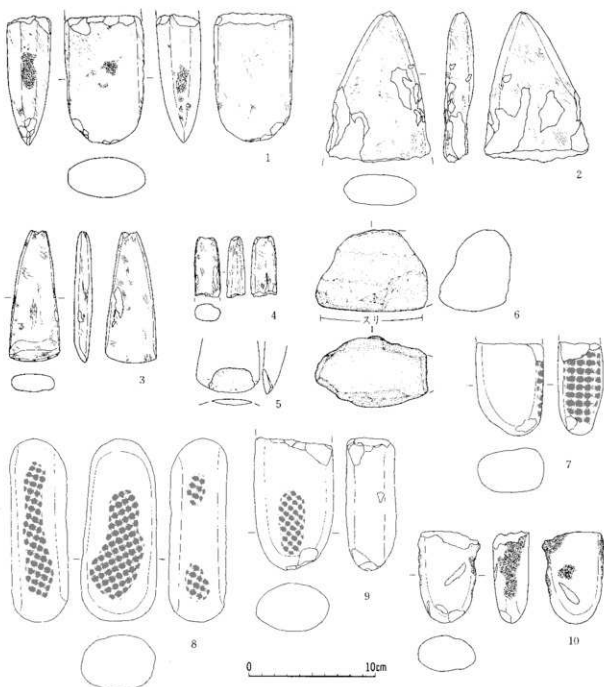
No.	器種	部位	出土地点	出土位置	外 面 文 様	分類	備 考
1	深鉢	口縁	IB-210	Ⅲ a	LR横位・縦位回転、押圧	Ⅱ c	
2	深鉢	口縁	IB-210	Ⅲ a	LR横位	Ⅱ c	
3	深鉢	口縁	IA-205	I	粘土紐貼付、LR押圧・横位・縦位回転	Ⅱ c	
4	深鉢	口縁	IB-210	Ⅲ a	LR押圧・横位・縦位回転、粘土紐貼付	Ⅱ c	
5	深鉢	口縁	II-211	Ⅲ a	粘土突起貼付、LR+LR(粘1)横位回転	Ⅱ c	突起表面に短沈線
6	深鉢	胴部	IA-205	I	LR横位・斜位回転、LR結節回転、粘土紐貼付、沈線	Ⅱ c	
7	深鉢	口縁	IF-212	Ⅲ a	LR横位回転、沈線	Ⅱ c	
8	深鉢	口縁	IA-205	I	LR押圧・横位回転、貼付突起	Ⅱ c	
9	深鉢	口縁	IF-212	Ⅲ a	LR横位回転、沈線	Ⅱ d	
10	深鉢	口縁	OF-207	I	複節縄文、沈線	Ⅱ d	
11	深鉢	口縁	IA-212	I	単節縄文、沈線、棒状刺突	Ⅱ d	
12	深鉢	口縁	IR-219	I	単節縄文、沈線	Ⅲ a	
13	深鉢	口縁	IR-219	I	単節縄文、沈線	Ⅲ a	

図24 縄文時代の遺構外出土遺物(3)



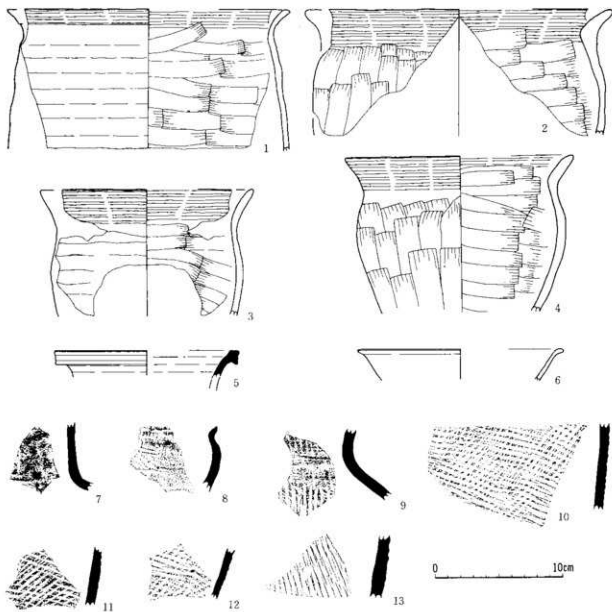
No	出土地点	出土位置	器種	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	備考
1	I G-209	I	石鏃	31.0	13.5	3.5	1.3	玉	
2	I A-205	I	石鏃	35.0	13.0	5.0	1.9	珉頁	
3	I K-213	II	石鏃	(43.0)	13.5	9.0	3.6	珉頁	
4	I F-212	IIIa	石鏃	38.0	13.5	7.5	3.2	珉頁	
5	I G-212	II	石匙	57.0	24.0	14.0	7.5	珉頁	
6	I A-211	I	石匙	77.5	27.5	14.0	21.4	珉頁	
7	I C-211	IIIa	石匙	58.5	21.0	11.5	9.1	珉頁	
8	I H-215	I	石鏃	57.0	24.0	14.0	15.0	珉頁	
9	I E-211	I	不定形	51.5	29.0	6.0	5.1	珉頁	
10	I H-211	I	不定形	46.5	40.0	14.0	19.9	珉頁	
11	I F-213	I	不定形	41.5	26.0	12.0	9.0	珉頁	
12	I H-211	I	不定形	46.5	41.5	13.5	21.2	珉頁	
13	I B-D-21	I	不定形	46.0	65.5	18.0	52.2	珉頁	
14	I E-210	I	不定形	90.5	53.0	17.0	55.1	珉頁	

図25 縄文時代の遺構外出土遺物(4)



No.	出土地点	出土位置	器種	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	備考
1	IF-210	Ⅲa	磨斧	(101.5)	63.0	35.0	382.5	緑凝	
2	IF-211	Ⅲa	磨斧	(119.0)	(84.0)	23.0	261.3	緑凝	
3	IA-211	表	磨斧	103.0	41.0	15.0	90.0	緑細凝	
4	IA-215	I	磨斧	(48.0)	20.0	15.0	26.8		
5	OS-209	Ⅲa	磨斧	(19.0)	(13.8)	(9.0)	5.4	緑細凝	
6	ON-210	Ⅱ	石冠	(65.0)	88.0	56.5	421.6	珪頁	
7	OR-206	Ⅲa	敲磨器	(74.0)	52.5	36.0	239.5	石英安	
8	IH-212	Ⅲa	敲磨器	146.0	60.5	48.5	648.9	流	
9	OF-223	Ⅲa	敲磨器	(95.5)	63.5	40.0	375.9	流	
10	IA-213	Ⅲa	敲磨器	73.0	49.5	29.0	113.7	流	

図26 縄文時代の遺構外出土遺物(5)



No.	種類	器種	部位	出土地点	層	口径	底径	器高	外面調整	内面調整	底面調整	備考
1	土師器	甕	口縁部	C区内		[22.0]	-	(11.0)	ロクロ、ヨコナデ	ヨコナデ	-	
2	土師器	埴	口縁部	1B-213	I	[24.0]	-	(12.2)	ヘラナデ、ヨコナデ	ヘラナデ、ヨコナデ	-	
3	土師器	埴	口縁部	1C-208	I	[16.5]	-	(10.0)	輪杵み肌、ヨコナデ	ヘラナデ、ヨコナデ	-	
4	土師器	甕	口縁部	1G-211		[18.0]	-	(12.5)	ヘラナデ、ヨコナデ	ヘラナデ、ヨコナデ	-	
5	須恵器	埴	口縁部	1D-208	I	[14.4]	-	(1.9)	ロクロ	ロクロ	-	
6	土師器	杯	口縁部	1B-208	I	[16.0]	-	(2.5)	ロクロ	ロクロ	-	
7	須恵器	長卵形	縁部	0F-218					ロクロ	ロクロ	-	
8	須恵器	小甕	口縁部	0Q-202	I				ロクロ、ケズリ	ロクロ	-	「大」字の刺書
9	須恵器	埴	胴部	0P-200	II				平行叩き	-	-	
10	須恵器	埴	胴部	1D-208	II				格子目叩き	-	-	
11	須恵器	埴	胴部	0S-204	I				格子目叩き	-	-	
12	須恵器	埴	胴部	0A-215	I				格子目叩き	-	-	
13	須恵器	埴	胴部	0O-200	II				格子目叩き	-	-	

図27 平安時代の遺構外出土遺物

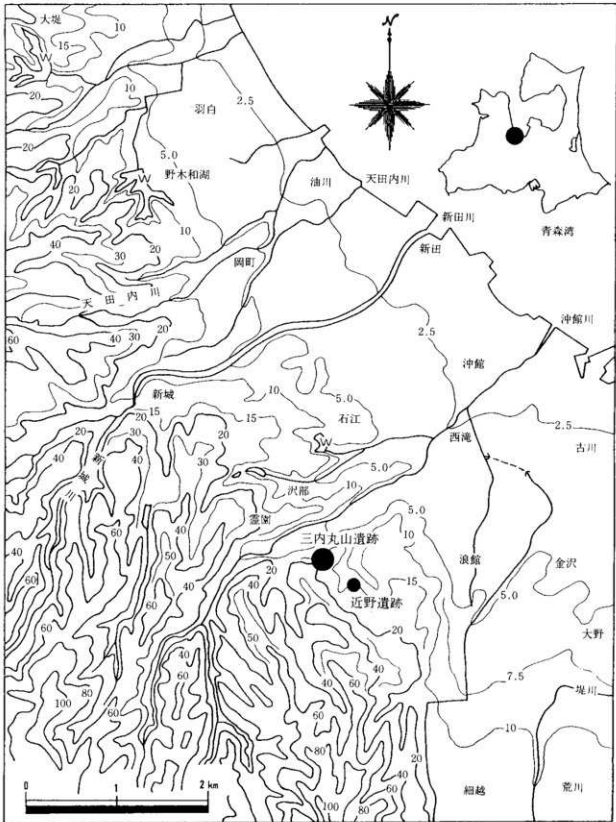


図28 遺跡周辺の等高線図

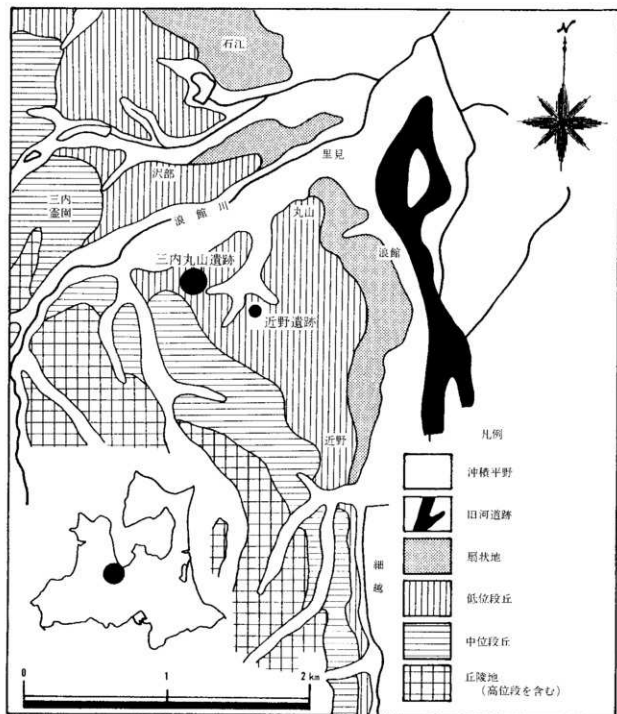


図29 遺跡周辺の地形分類図

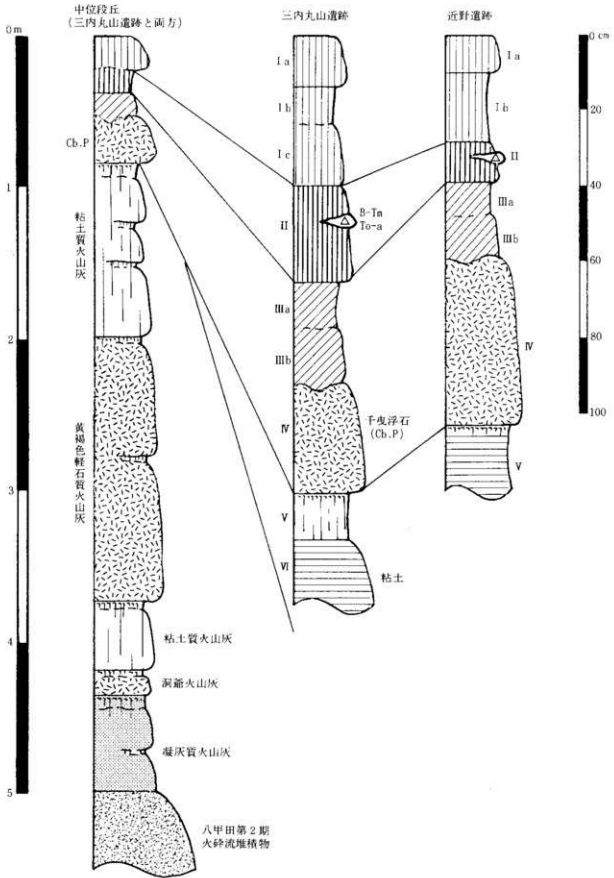


図30 遺跡周辺の土層の模式柱状図

【円筒下層c式期以前】 利用痕跡が認められない。

【円筒下層d式期】 YS 5に続く斜面等に、土器の小規模な集中ブロックとして利用痕跡が認められる。

【円筒上層a～上層c式期】 極少量の土器片が残されるのみである。

【円筒上層d式期】 台地先端部に大型住居を中心に居住区域が形成される。この時期と特定できる他の遺構は確認されていない。時期不明の土坑に含まれている可能性もある。

【円筒上層e式期】 居住施設を中心域は、台地先端部から南のC区に拡大する可能性がある。フラスコ状土坑と小土坑、竪穴遺構が集落構成要素に加わる。

【榎林式期】 フラスコ状を含む土坑に加えて、性格不明の竪穴遺構が構築され出す。構築範囲は、台地先端からE区までである。居住施設と判断されるものは検出されていない。

【最花式期】 再び台地の先端部に居住区域が形成されるが、規模は縮小している。集落構成要素としては若干の竪穴遺構と、掘立柱建物（註1）が新たに加わる可能性がある。

【大木10併行式期以降】 十腰内I式期に、YS 4-5台地先端部とYS 8西斜面に竪穴遺構が形成されるが、住居・土坑等は構築されなくなる。YS 8西斜面にはこの時期の遺物包含層が形成されており、多量の土器が出土している。これ以降は縄文晩期に、YS 4-5台地先端部において少数の竪穴

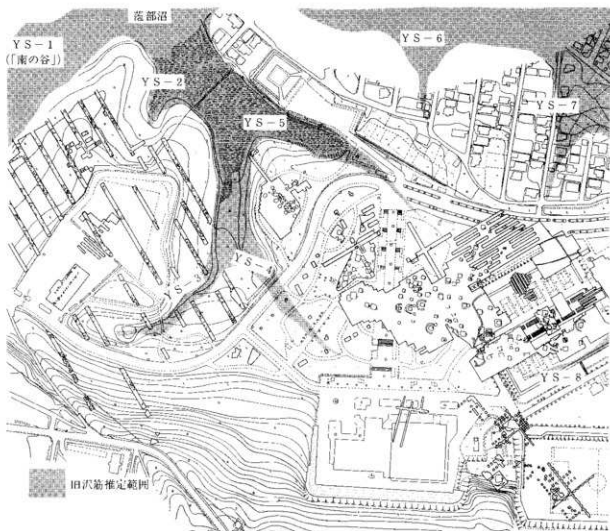
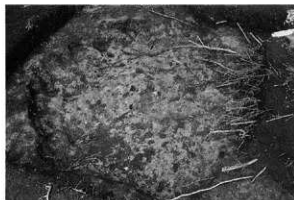


図31 菟部沼南側の集落立地

報告書抄録

ふりがな	ちかのいせき こ							
書名	近野遺跡Ⅴ							
副書名	県総合運動公園拡張整備事業に伴う遺跡試掘調査							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第216集							
編集者名	秦 光次郎							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	青森県青森市大字新城字天田内152-15							
発行年月日	西暦1997年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
近野遺跡	青森県青森市 大字安田字近野219、外	02201	01065	40度 48分 28秒	142度 42分 31秒	19951012 ～ 19951114	576㎡	県総合運動公園拡張整備事業に伴う遺跡試掘調査
						19960802 ～ 19961031		
						1,600㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
近野遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 竪穴遺構 土坑	13軒 2軒 17基	縄文土器（円筒下層 d～後期前葉） 土製品（耳飾） 他に石器類	縄文時代集落の主体時期は円筒上層d～e式。		
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡 土坑	11軒 1基	土師器（坏・甕） 須恵器（甕）			



第1号竖穴遺構



第5号土坑



第6号土坑



第8号土坑



第2・3号土坑確認



B区調査トレンチ



作業風景



作業風景

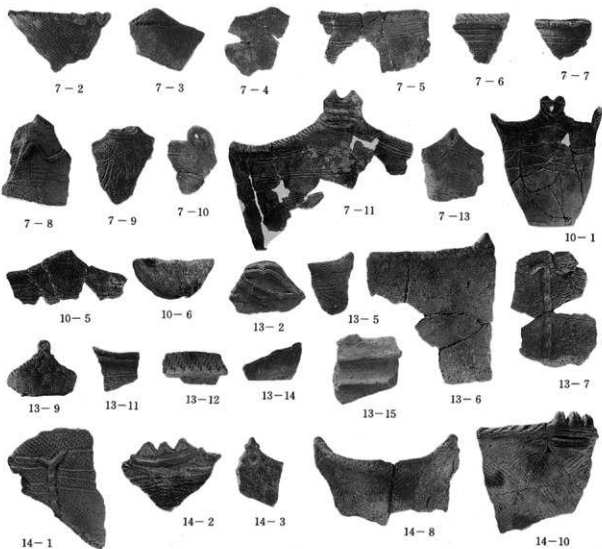
土坑・竖穴遺構・作業風景



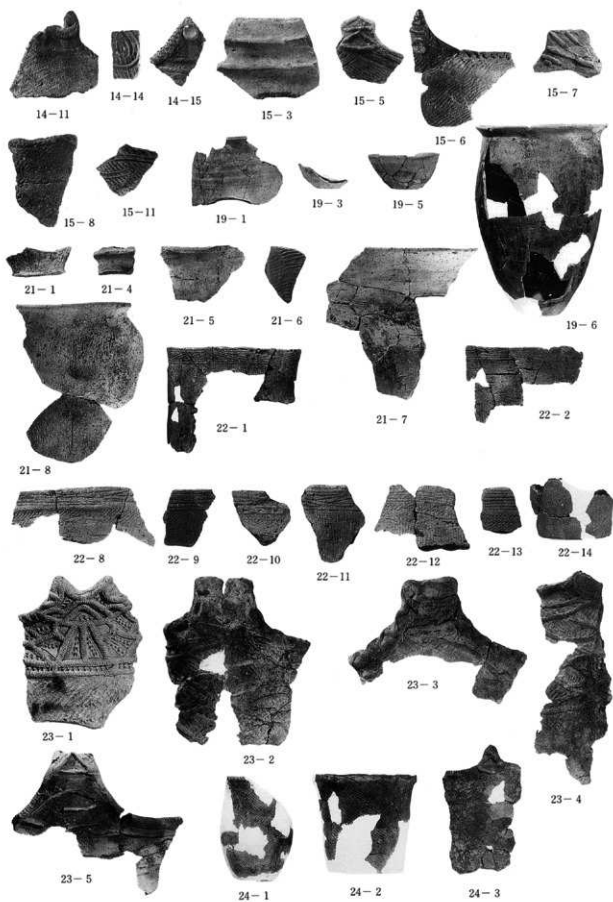
F区Pトレンチ



F区Hトレンチ



F区トレンチ・縄文時代の遺構出土遺物



出土遺物



24-4



24-5



24-6



24-7



24-8



24-9



24-10



24-11



24-12



24-13



F-1



F-2



F-3



F-4



27-1



27-2



27-3



27-5



27-6



27-7



27-8



27-9



27-11



17-2

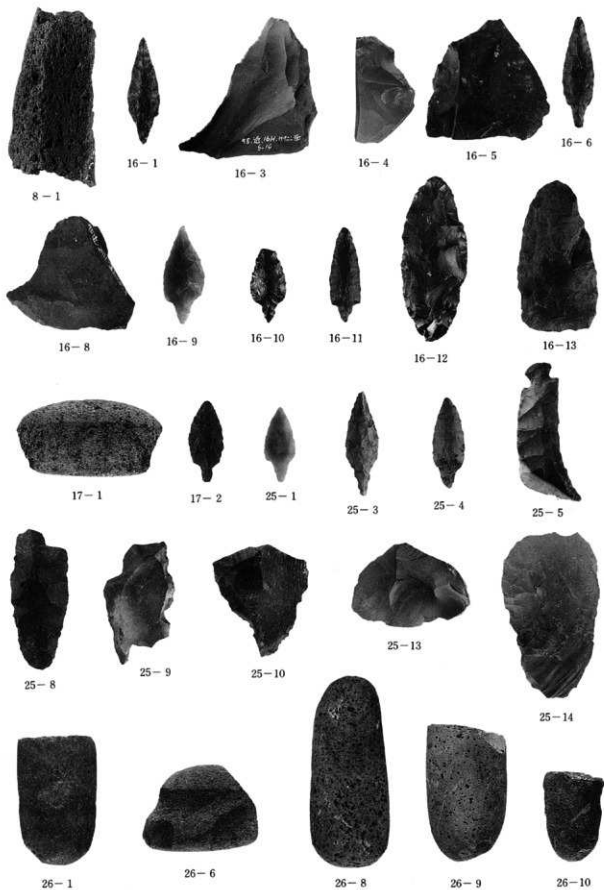


17-3



27-13

出土遺物



出土遺物

